

- 問1 元禄文化の特徴について述べた文として、歴史的な背景を含めて正しく説明しているものはどれか、次の中から選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 幕府の政治が安定し、上方で経済力をつけた町人たちが、自分たちの生活や価値観を反映させた文芸や芸術を生み出した。 | 2. 武家が政治の主導権を握った直後、有力な大名たちが権力を誇示するために、城郭や障壁画に豪華な装飾を施した。 | 3. 江戸を中心に、浮世絵や川柳などが流行し、広く庶民の間で皮肉や滑稽を楽しむ文化が浸透した。 | 4. 大陸との交易が活発になったことを背景に、禅宗の影響を受けた簡素で気品のある文化が武士の間で流行した。 |
|--|---|---|---|
- 問2 18世紀末のフランスで起きた市民革命の背景や経過について述べた文として、正しいものはどれか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 国王が議会の要求を受け入れ、議会政治の基礎となる権利の章典が承認された。 | 2. 農奴制の廃止を求める大規模な農民反乱がきっかけとなり、皇帝による改革が行われた。 | 3. 絶対王政が打倒されて人権宣言が採択され、その後の混乱期を経てナポレオンが権力を握った。 | 4. イギリスからの独立を求めて独立戦争が始まり、ワシントンを指導者として独立宣言が出された。 |
|---|---|--|---|
- 問3 16世紀後半から17世紀初頭にかけての日本におけるキリスト教徒数の統計では、1614年をピークとしてその後急速に減少に転じている状況が見られます。この背景にある、江戸幕府がカトリック教会の布教を禁止し、貿易を制限した最大の理由として適切なものはどれですか。 (2022年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. ヨーロッパ諸国との貿易よりも、中国や朝鮮との貿易を優先して国内経済を安定させる必要があったため | 2. キリスト教徒が団結して幕府の支配に抵抗したり、外国による侵略のきっかけになったりすることを恐れたため | 3. 仏教勢力が国内で急速に拡大し、キリスト教を排斥するよう幕府に対して軍事的な圧力をかけたため | 4. 先に日本へ到達していたイギリスやオランダが、カトリックの布教を完全に停止させるよう幕府に強く要求したため |
|--|---|--|---|
- 問4 19世紀前半、江戸を中心に栄えた町人文化において、大胆な構図で富士山を描いた「富嶽三十六景」などの風景画を確立した浮世絵師と、その時期の文化名の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1. 尾形光琳 — 化政文化 | 2. 尾形光琳 — 元禄文化 | 3. 葛飾北斎 — 化政文化 | 4. 葛飾北斎 — 元禄文化 |
|----------------|----------------|----------------|----------------|
- 問5 江戸幕府は江戸を中心として5つの主要な街道を整備しました。そのうち、現代の新幹線がほぼ同じルートを通っていることで知られ、江戸から京都・大坂方面へと至る、当時最も利用者の多かった街道を何といいますか。 (2015年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|--------|---------|
| 1. 奥州街道 | 2. 甲州街道 | 3. 中山道 | 4. 東海道路 |
|---------|---------|--------|---------|
- 問6 フランス革命の最中に発表され、自由・平等や私有財産の不可侵、国権在民などを唱え、近代民主主義の指針となった文書の名称として適切なものを選択してください。 (2016年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|------------------|---------|
| 1. 人権宣言 | 2. 権利の章典 | 3. マグナ・カルタ (大憲章) | 4. 独立宣言 |
|---------|----------|------------------|---------|
- 問7 江戸幕府の三代将軍として、大名が一年交代で江戸と領地を行き来する「参勤交代」を制度化し、幕府による大名の支配体制を固めた人物は誰ですか。 (2023年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 徳川秀忠 | 2. 徳川家康 | 3. 徳川家光 | 4. 徳川吉宗 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問8 杉田玄白らが『解体新書』を出版した経緯とその歴史的な意義について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 幕府がキリスト教の布教を防ぐために西洋の学問を禁じたため、密かに日本語の古典を整理して出版した。 | 2. 日本独自の伝統を再評価しようとする国学が盛んになったことで、古事記などの古典をオランダ語に翻訳して海外へ発信した。 | 3. 実際の解剖を通じて西洋の医学書の正確さを確認したことがきっかけとなり、翻訳を通じて西洋の科学的知識を導入しようとした。 | 4. 明治政府による文明開化の政策の一環として、西洋の進んだ軍事技術や政治制度を広く国民に紹介しようとした。 |
|---|--|--|--|
- 問9 江戸時代後期に庶民の教育機関である寺子屋の開業数が増加したことで、人々の生活や文化にどのような影響を与えましたか。最も適切なものを次のうちから選びなさい。 (2025年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 活字による印刷技術が新しく発明され、西洋の学術書が大量に印刷された。 | 2. 文字を読める庶民が増加し、瓦版や書籍などの出版物が広く普及した。 | 3. 義務教育制度が国家によって全国一律に整備され、進学率が上昇した。 | 4. 武士の子供を対象とした藩校が増加し、幕府の政策が急速に浸透した。 |
|---------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
- 問10 江戸時代には新田開発の進展によって収穫量が増加し、農作業を効率化するための農具が次々と発明されました。このうち、数本の鉄の歯の間に稲を挟んで引くことで、それまでの方法に比べて飛躍的に早く「脱穀」を行うことができるようになった農具の名称を選びなさい。 (2021年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|-------|---------|
| 1. 万石通し | 2. 備中鍬 | 3. 踏車 | 4. 千歯こき |
|---------|--------|-------|---------|
- 問11 1792年、ロシアの使節ラクスマンが、日本人の漂流民を送り届けるとともに通商を求めて来航した場所と、当時の幕府で寛政の改革を主導していた老中の組み合わせとして正しいものを、次の中から選びなさい。 (2026年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 浦賀 — 田沼意次 | 2. 根室 — 松平定信 | 3. 根室 — 水野忠邦 | 4. 長崎 — 松平定信 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
- 問12 江戸時代後半、江戸を中心に栄えた化政文化においては、庶民の暮らしや娯楽を反映した作品が多く生まれました。この時期に十返舎一九によって執筆され、弥次郎兵衛と喜多八の二人が東海道を旅する様子を滑稽に描いた文学作品として正しいものを次の中から選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|----------|------------|
| 1. おくのほそ道 | 2. 日本永代蔵 | 3. 曾根崎心中 | 4. 東海道中膝栗毛 |
|-----------|----------|----------|------------|
- 問13 田沼意次が、従来の「年貢 (米)」による収入を増やす方針から、商工業者の活動を利用する方針へと大きく転換した背景として、最もふさわしい説明を選択してください。 (2021年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 「生類憐みの令」の影響で農業生産力が低下し、食料不足を解消するために商業を振興させる必要があったから。 | 2. 貨幣経済が農村まで浸透し、米を基準とした財政システムだけでは幕府の運営が困難になっていたから。 | 3. 武士が商業に従事することを許可し、身分制度を解体することで新しい国家建設の資金を得ようと考えたから。 | 4. 鎖国体制を完全に廃止して外国との自由貿易を開始するために、国内の商工業を大規模に組織化する必要があったから。 |
|--|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 幕府の政治が安定し、上方で経済力をつけた町人たちが、自分たちの生活や価値観を反映させた文芸や芸術を生み出した。	元禄時代は兵農分離が進み、平和な世の中が定着した時期にあたります。商業の発展により富を得た京都や大阪の町人が文化の主役となり、彼らのリアリズムに基づいた表現が井原西鶴の小説や近松門左衛門の人形浄瑠璃などに現れました。他の選択肢は、化政文化、東山文化、桃山文化の説明です。
問2	答え 3 絶対王政が打倒されて人権宣言が採択され、その後の混乱期を経てナポレオンが権力を握った。	フランス革命は、深刻な財政難や不平等な身分制度（アンシャン・レژیーム）への不満から発生し、人権宣言によって近代市民社会の原則が示された。その後、革命の混乱を鎮める形でナポレオンが登場した。他の選択肢はアメリカ独立革命やイギリスの名誉革命に関する内容である。
問3	答え 2 キリスト教徒が団結して幕府の支配に抵抗したり、外国による侵略のきっかけになったりすることを恐れたため	江戸幕府は、キリスト教の「神の下での平等」という教えが封建的な身分秩序や主従関係を脅かすことを警戒しました。また、スペインやポルトガルなどのカトリック国が布教を通じて信者を増やし、最終的に日本を植民地化するのではないかという侵略への懸念を抱いたことが、禁教と貿易制限（いわゆる鎖国体制の形成）の主な動機となりました。
問4	答え 3 葛飾北斎 — 化政文化	11代将軍徳川家斉の時代、19世紀前半に江戸を中心に栄えた文化は化政文化と呼ばれます。葛飾北斎はこの時期に活躍した浮世絵師で、風景画という新しいジャンルを確立しました。尾形光琳は17世紀後半から18世紀初めの元禄文化において、装飾画（琳派）で活躍した人物です。
問5	答え 4 東海道	江戸幕府が直轄した「五街道」の一つである東海道は、日本の政治の中心である江戸と、天皇の住む京都、経済の拠点である大坂を結ぶ最重要ルートでした。現代の新幹線のルートも、山を避け海岸沿いを進むこの歴史的な経路をほぼ踏襲しており、地形的・歴史的に一貫した交通の要所としての役割を担っています。
問6	答え 1 人権宣言	革命の勃発後、1789年に国民議会によって採択されたこの文書は、人間が生まれながらにして自由かつ平等の権利を持つことを示しました。イギリスの権利の章典やアメリカの独立宣言の影響を受けつつ、封建的な特権の廃止を決定づけました。マグナ・カルタは13世紀のイギリスで王の権限を制限した文書です。
問7	答え 3 徳川家光	二代将軍秀忠の跡を継いだ徳川家光は、1635年に「武家諸法度」を改定し、それまで慣習的に行われていた参勤交代を義務化しました。これにより、幕府の権威を全国に示し、組織的な支配体制を完成させました。
問8	答え 3 実際の解剖を通じて西洋の医学書の正確さを確認したことがきっかけとなり、翻訳を通じて西洋の科学的知識を導入しようとした。	杉田玄白らは、オランダ語の医学書が実態を正確に捉えていることを確認し、それまでの経験則に基づいた医学から、科学的根拠を重視する医学への転換を目指しました。この翻訳作業は、当時の辞書が不十分な中で行われ、後の日本の近代化における科学教育の土台となりました。
問9	答え 2 文字を読める庶民が増加し、瓦版や書籍などの出版物が広く普及した。	江戸時代後期には寺子屋の開業数が増加し、読み書きや計算を学ぶ庶民が増えました。その結果、文字を読める庶民層が拡大し、瓦版や娯楽本などの様々な出版物が普及する背景となりました。武士を対象とした教育機関は藩校であり、またこの時代に新しい印刷技術が発明されたわけではありません。
問10	答え 4 千歯こき	江戸時代以前は「竹こき」などの道具で少しずつ粃（もみ）を落としていましたが、鉄製の歯を用いた「千歯こき」の登場によって脱穀作業の効率が劇的に向上しました。これにより、新田開発で増大した収穫物の処理がスムーズになり、農業生産力の向上を支える重要な役割を果たしました。あまりに効率が良かったため、それまで脱穀を仕事にしていた寡婦（未亡人）たちの仕事を奪ったことから「後家倒し（ごけだおし）」という別名でも呼ばれました。
問11	答え 2 根室 — 松平定信	ロシアの使節ラクスマンは、伊勢の漂流民である大黒屋光太夫らを伴って北海道の根室に來航しました。この時期、江戸幕府では老中の松平定信が寛政の改革を行っており、緊縮財政や風紀の引き締めを図る一方で、北方からのロシアの接近に対して警戒を強めていました。
問12	答え 4 東海道中膝栗毛	19世紀初めの江戸を中心に栄えた化政文化では、庶民の好みを反映した滑稽本や、人情本といった通俗的な文学が流行しました。十返舎一九の『東海道中膝栗毛』は、庶民による伊勢参りなどの旅行ブームを背景に、旅先での失敗談を面白おかしく描いた作品です。選択肢の『おくのほそ道』は元禄文化期の松尾芭蕉による紀行文、『日本永代蔵』は同じく井原西鶴による浮世草子です。
問13	答え 2 貨幣経済が農村まで浸透し、米を基準とした財政システムだけでは幕府の運営が困難になっていたから。	江戸時代中期になると、都市だけでなく農村にも貨幣経済が広まり、武士も生活に必要な物品を現金で購入する必要が生じていました。一方で、幕府の収入は依然として農民からの年貢（米）が中心であり、不作の影響を受けやすく不安定でした。田沼意次は、こうした社会の変化に対応するため、農本主義的な考えから一歩進み、商業資本を活用して財政を安定させるという合理的な判断を行いました。